



# イベント報告

## 友の会総会・講演会

6月12日(土)友の会総会が行われ、平成21年度事業・会計報告、平成22年度事業計画・予算案について提案され、いずれも承認されました。また、役員改選については、地域に密接な友の会活動を展開したいことから、山田薫会員を新役員として増員することとなりました。

総会終了後、信濃川河川事務所長(総会時)の澤野さんより「大河津可動堰改築事業の概要について」と題してお話いただきました。工事の施工状況やゲートの仕組みなど、スライドを使い分かりやすく説明していただきました。



## 信濃川中流域探訪バスツアー

6月28日(月)、29日(火)信濃川中流域探訪バスツアーを行いました。JR信濃川発電所や宮中取水ダム、農と縄文の体験実習館なじょもんなどを巡りました。なじょもん友の会の方々と交流し、その様子が津南新聞でも紹介されました!参加者から「なじょもん友の会の方々と交流は大変良かった!」「今度はなじょもん友の会の方々から大河津分水に来てほしい!」など感想をいただきました。

～コース～

1日目

- ①信濃川発電所 ②沢山ポケットパーク ③長徳寺山門
- ④宮中取水ダム ⑤竜ヶ窪 ⑥見玉不動尊

2日目

- ①河岸段丘展望台 ②農と縄文の体験実習館なじょもん
- ③十日町市博物館



## 講演「大川」・「信濃川」と「掘割」の必然性 ～『大河津分水双書第10巻』の構想にふれて～

7月3日(土)五百川清さんから「大川」・『信濃川』と『掘割』の必然性」と題してお話いただきました。また、今後発刊予定の双書第10巻の構想についてもお話されました。



# 新旧可動堰見学ツアー

8月7日（土）新旧可動堰見学ツアーを行いました。参加者から「80年近く動き続けている可動堰を間近で見ることができ、越後平野を守り続けている可動堰に感動しました。」と感想をいただきました。新可動堰の工事現場は洪水期のため休工中でしたが、普段入ることができない工事現場の中に入り新可動堰の堰柱や魚道を見学してきました。



## 信濃川大河津防災センターからのお知らせ

### 被災者が語る 7.13水害の教訓 開催中

被害に遭われた方々が「皆さんの教訓になれば・・・」と、当時の様子をお話して下さいました。被災者の声をパネルと写真で紹介します。

期間：平成22年7月10日（土）～10月3日（日）  
会場：信濃川大河津防災センター



ぜひ見に来てください！



会場の様子（左）と展示パネル（右）

#### Interview 7.13水害の教訓

##### 安達吉信さん (新潟県船尾市在住)

「安達さんは長岡市内の工場（長岡田川沿岸・土曜市場）に勤務中に水害を経験しました。従業員は避難されたことが多く車を失うことになった当時の状況についてお話をいただきました。

自宅から会社に通うまでに強い雨のため、道路に茶色い水が流れ出ている、何となく普段と違うと感じました。

お昼ご飯を食べている最中、羽谷田川の水位が上がったため水が溢れられました。これにより排水ができず工場の敷地に水が溜まり、作業停止となりました。そのうち上流から濁水が流れてきて駐車場が浸水、車が流される危険性があったため、工場より下流の方にある高台に車を移動させました。水門閉鎖による洪水は過去に幾度かあったため「いつものことだ」と言い聞かせるように心を落ち着かせていました。

工場に戻るまで浸水深は膝下くらいまでになり、さらに水かさが増す心配であったので、再度車を移動させるため高台へ向かいました。車の移動を終え会社に帰ろうとしたのですが、膝上まで浸水し、流れが強くなったため会社に流れなくなり、そのうち上流から車や大木が流されてきて、とても乗る状態ではなくなってしまいました。それでも何とか戻ろうとしたときでした。路肩の側溝らしき深みに足を取られ転ぶかと思った瞬間、足を取られ転ぶかと思った瞬間とゾッとします。



信濃川水川の洪水は長岡市船尾市を浸水させた。

## 今号の可動堰

7月から9月は洪水発生危険性の高い時期のため大河津可動堰改築事業に伴う可動堰本体工事は一時的にお休みしています。ゲート設備や管理橋の工事も前号より進み、大河津分水の景観も少しずつ変わってきました。

新可動堰完成に向けて、可動堰周辺の定点撮影を紹介します。



右岸堰軸から撮影  
(平成22年8月8日撮影)



右岸堰軸から近景を撮影  
(平成22年8月8日撮影)

大河津可動堰情報館 URL <http://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/kadouzeki/>



## ワールドカップと信濃川のつながり？

友の会会員 藤田 一哲

スペイン優勝で幕を閉じたサッカーワールドカップ。日本もベスト 16 に進む快挙を成し遂げました。このワールドカップと信濃川が繋がること…。それを今回のテーマにしてみました。

新潟から初選出された「矢野貴章選手」、何かのインタビューで「晴れた日の萬代橋は、すごく気持ち良い」とコメントしていました。鳥屋野潟には「ビッグスワン」があるし、十日町市には「クロアチアピッチ」がある。確か長岡市も練習地に立候補していましたね。三条市だと矢野選手の同僚、「酒井高德選手」がサポートメンバーとして帯同しました。酒井選手はドイツ人のお母さんを持つハーフでなかなかのイケメンです。三条市といえば金物のほか、六角凧の凧（イカ）合戦も有名ですよ～。

信濃川の“水で育った”酒井選手はドイツのハーフ…出身地の三条は凧（イカ）合戦で有名…酒井選手はドイツのハーフ…三条の凧合戦…ドイツ…タコ…ドイツのタコ?!…“占いたコ”パウル君！繋がりましたね（強引とか言わない）。

うん？閃きました。日本が立候補した 2022 年ワールドカップ、新潟で開催されたら“蛸占い”ならぬ“凧合戦占い”はどうでしょうか？絵柄を国旗にして…。負けた方は相当恨まれそうですけど…。あっそうか、こっちも各国代表にやってもらおうか…。あれ？結構盛り上がるかも。



## 感謝とお礼、そして大きな期待

友の会会員 小林 清

この度平成 22 年度建設事業関係功労（河川事業関係）として、国土交通大臣表彰を受賞させていただき、心から感激いたしておりますと共に、長年にわたり、ご支援、ご指導をいただきました関係各位に改めて深く感謝とお礼を申し上げます。

昭和 30 年、昭和の合併による新生分水町の職員として奉職以来、今日までの 55 年間の長きにわたり、直接地域住民の方々と共に地域づくり、まちづくりの為、川とともに精一杯汗を流させていただく事ができました。

河とのつながりは、確か小学 5 年生と記憶していますが、源八新田のご当主、森山耕田様から、数人の仲間と共に数回にわたり直接ご自宅にお伺いし、大河津分水工事と源八新田客土事業についての社会科の勉強が私のスタートとなりました。

大河津分水路の最終完成以来、昭和 57 年最大の大出水災害を契機に大河津分水路の抜本的な大改修計画が提起されました。「大河信濃川の中流域に於ける破堤大災害の歴史を繰り返さない」との大前提のもと、先ず、老朽化した最も要の治水施設である洗堰の完成、右岸堤防の強化工事の完成、そして今、新可動堰が国内発のラジアルゲート方式を採用、平成 23 年暫定通水、25 年工事完了が着実に進行しています。

いよいよこれからが“大河津分水大改修事業の本番”であります。寺泊河口の開削です。日本海側初の政令指定都市、県都新潟市を作り上げた日本一の大河川信濃川。その治水事業は一時の停滞も許されません。国内屈指の大河川景観と地域活性化を兼ね合せた大治水事業の早期完成に大きく期待するものであります。友の会の一員として、大河津分水事業に深く関係された先達の方々のこの大きな遺産をしっかりと守り伝えていきたいと存じます。

**次のご指名は野原永吉さんと相田信さんです。**